

開講科目名	専門演習 B (2)		
担当教員	安岡 正晴	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

この演習では、G 8（アメリカ、イギリス、カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、ロシア、日本）の政治、経済、外交、社会生活、大衆消費文化の比較をメインテーマとします。私たちは、消費者、生活者、主権者、学生または労働者といった違った顔で社会と関わっていますが、それぞれの側面で各国社会を比較してみるとのどのような問題点や長所が見えてくるのでしょうか？前期のゼミでは個人発表とテーマ別のディスカッションを組み合わせながら、例えば以下のようなテーマをカバーしてゆきたいと考えています。

1. 世界のトレンドはどう変わるか
2. G 8 の社会や政治経済はどこへ向かうのか？
3. 国際情勢の現状と課題

この演習は講座や学年を問わず、積極的に発表し、議論する学生を歓迎します。なお今期は6月30日に立命館大学で開催される関西国際関係合同ゼミナールに参加しますので、合同ゼミに関わる活動にも積極的に参加してほしいと思います。

授業の概要と計画

テーマの大枠としては

1. G 8 の社会はどこへ向かうのか？
（教育、家族、宗教、メディア、環境、都市、社会的統合と社会的排除、犯罪、貧困、移民、福祉）
2. 国際情勢の今後
（金融危機以後の世界経済、ユーロ・ドルの動揺、米中、米ロ、米欧関係、核問題、BRICsの展望、イラク・アフガニスタン・イラン情勢、中東民主化とその影響、2012年大統領選挙、国家主席交代の影響）
3. 日本政治・外交・経済の諸問題
（領土問題、民主党政権の将来と政権交代の可能性、日米中関係の行方、捕鯨問題、財政再建、年金問題、医療のグローバル化、少子高齢化に対応した医療、子育て支援、TPPと日本農業、地方分権改革、無縁社会、選択的夫婦別姓、国際離婚とハーグ条約）
4. 世界のトレンドはどう変わるか？（多国籍ビジネス、エンターテインメント、貿易、ファッション、観光など）をカバーしたいと考えています。世界と日本の主要な政治経済的課題について、どのテーマについても必ず一度はゼミで議論したことがあると言えるようなゼミにしたいと考えています。

成績評価と基準

プレゼンテーション 40%
授業中の発言、参加 30%
コメント提出 30%
を総合して評価します。

履修上の注意（関連科目情報等を含む）

6月30日に立命館大学で開催される関西国際関係合同ゼミナールに参加し、発表する予定なので、合同ゼミ活動に意欲的な諸君を歓迎します。なお履修希望者は初回の授業（4月16日）に必ず出席してください。初回授業に出席できない場合は履修を認めません。

オフィスアワー・連絡先

オフィスアワー：月、水、金の昼休み、他は要予約
研究室 E409
E-mail yasuoka@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

演習は単なる授業科目の一つではなく、大学での研究の中心になるものです。自分の興味があることを発表するだけでなく、メンバーの発表から互いに学び、好奇心を膨らませて、他の人にも建設的にアドバイスできるような積極的な関係を作ってゆきたいと思っています。なお『比較政策論』（金2）もできる限り併せて受講してほしいと思います。

今年度の工夫

今年はシミュレーションなど新しい手法も用いて、クラス全体での活発な議論を促すようにしたい。

教科書

特に使用しない。

参考書・参考資料等

スティーブン・リード『比較政治学』ミネルヴァ書房、2006
ニール・スメルサー『グローバル化時代の社会学』晃洋書房、2002
梶田孝道編『新・国際社会学』名古屋大学出版会、2006

授業における使用言語

日本語

キーワード